



2027年3月期 第1四半期 決算補足資料

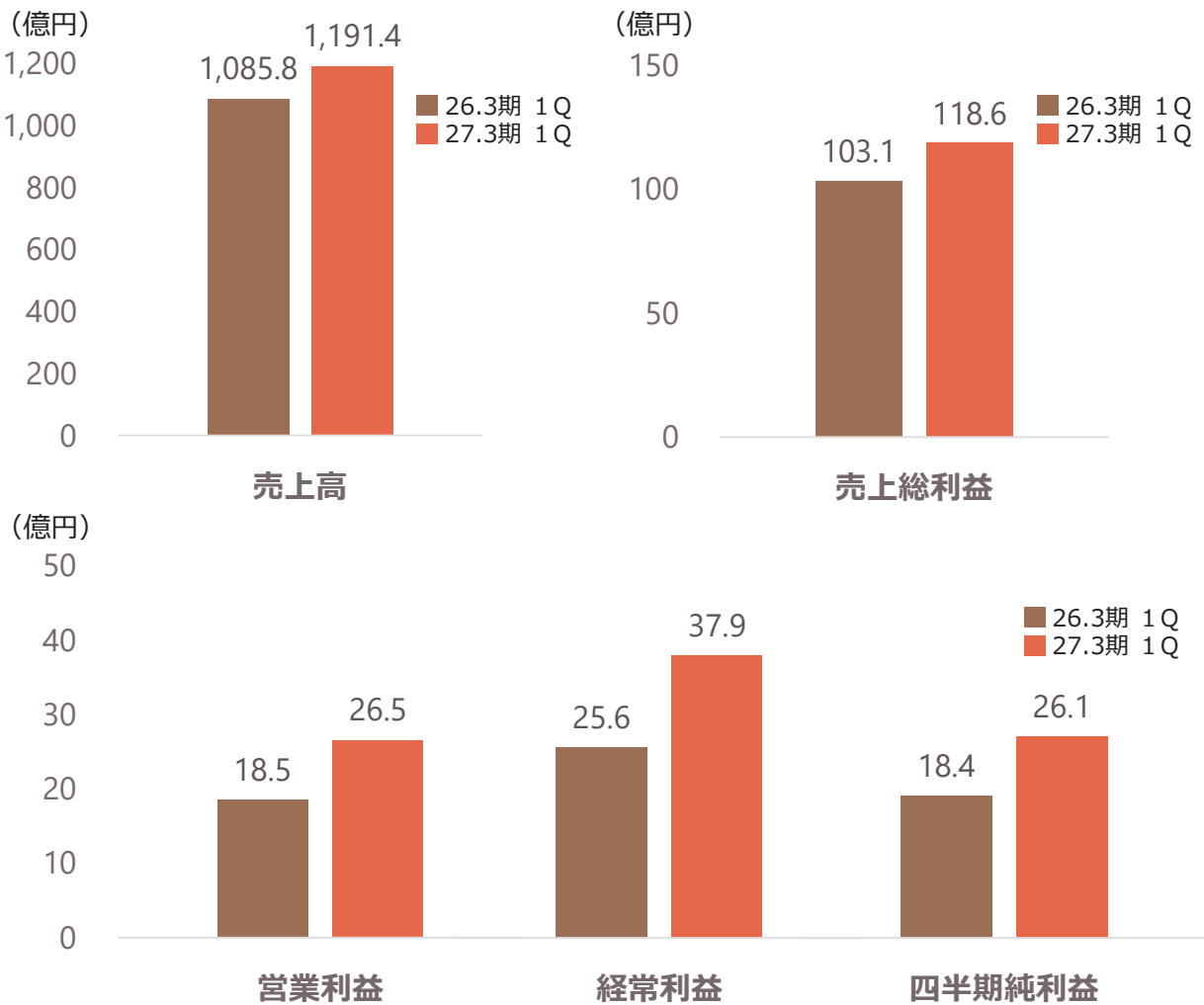
スターゼン株式会社 証券コード：8043

2026年8月13日

1. 業績ハイライト

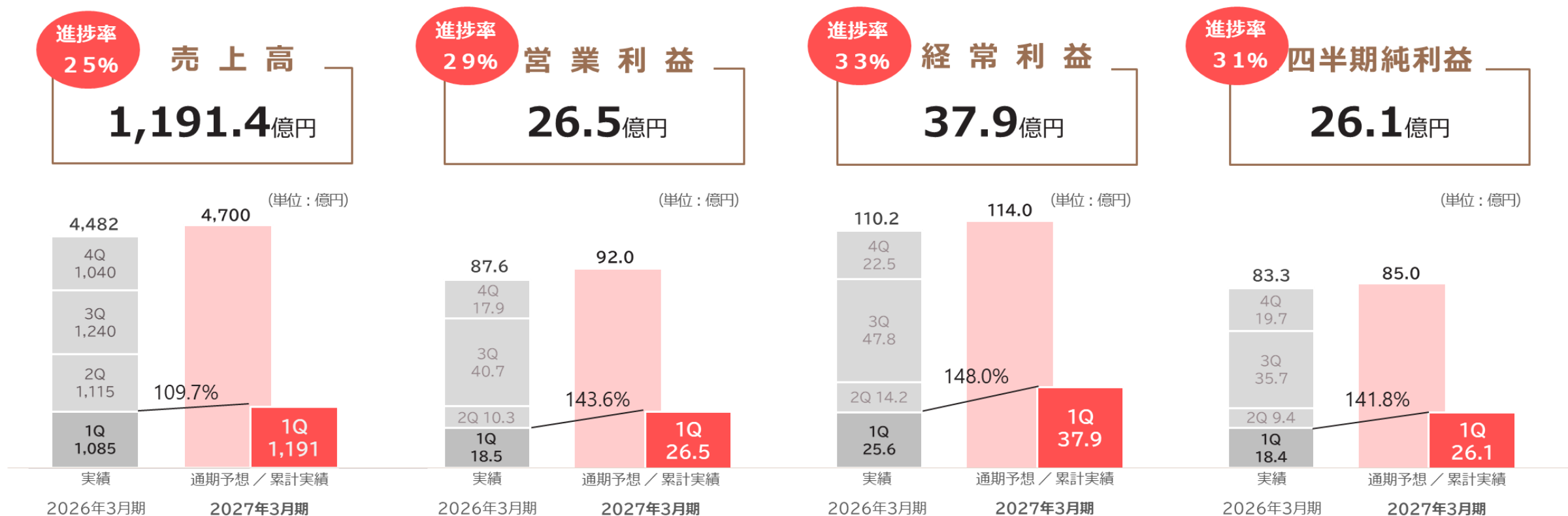
(単位：億円)

	2026.3期 1Q	2027.3期 1Q	前年同期比
売上高	1,085.8	1,191.4	過去最高 109.7%
売上総利益	103.1	118.6	過去最高 115.0%
営業利益	18.5	26.5	過去最高 143.6%
経常利益	25.6	37.9	過去最高 148.0%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	18.4	26.1	過去最高 141.8%



加工食品・輸入食肉の好調により、売上高・各利益ともに過去最高

2. 通期予想に対する進捗率

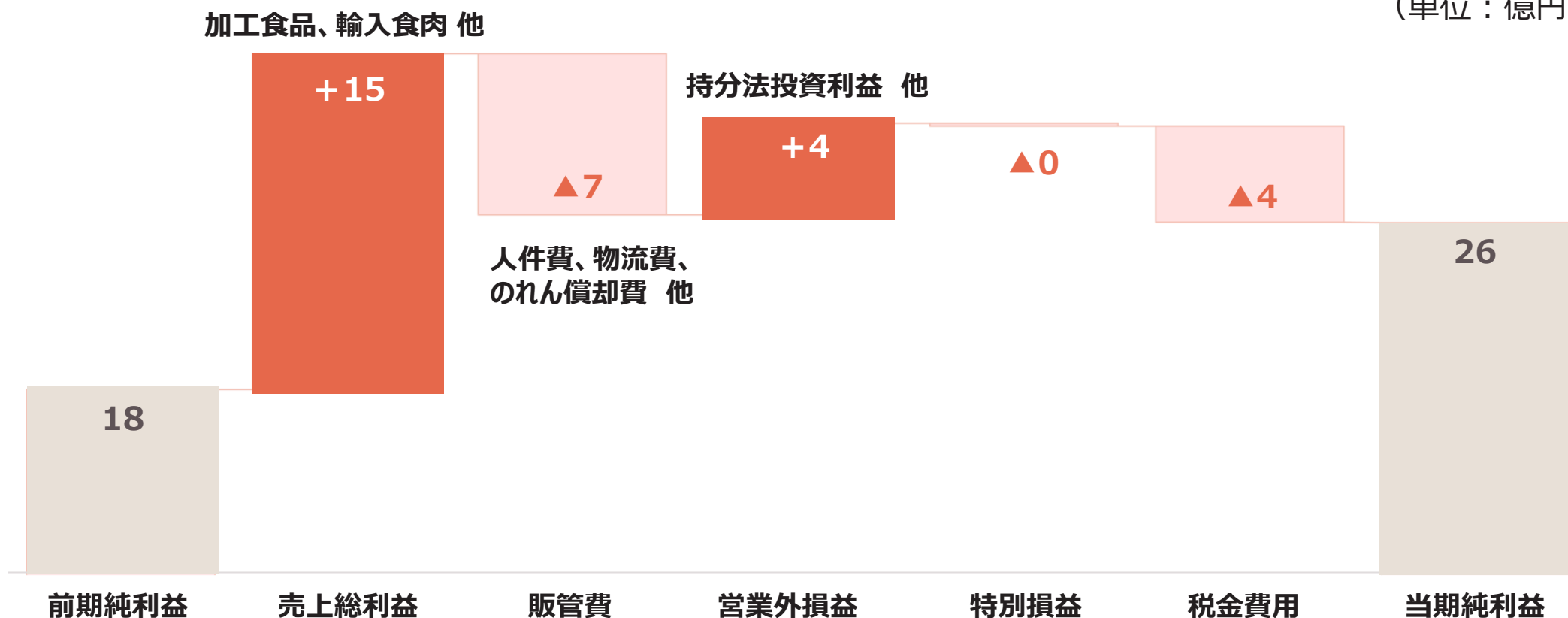


例年の第1Q進捗率※に比べて順調に推移

(※過去5年平均実績：売上高24%/営業利益26%/経常利益27%/四半期純利益26%)

3. 損益増減の概要

(単位：億円)



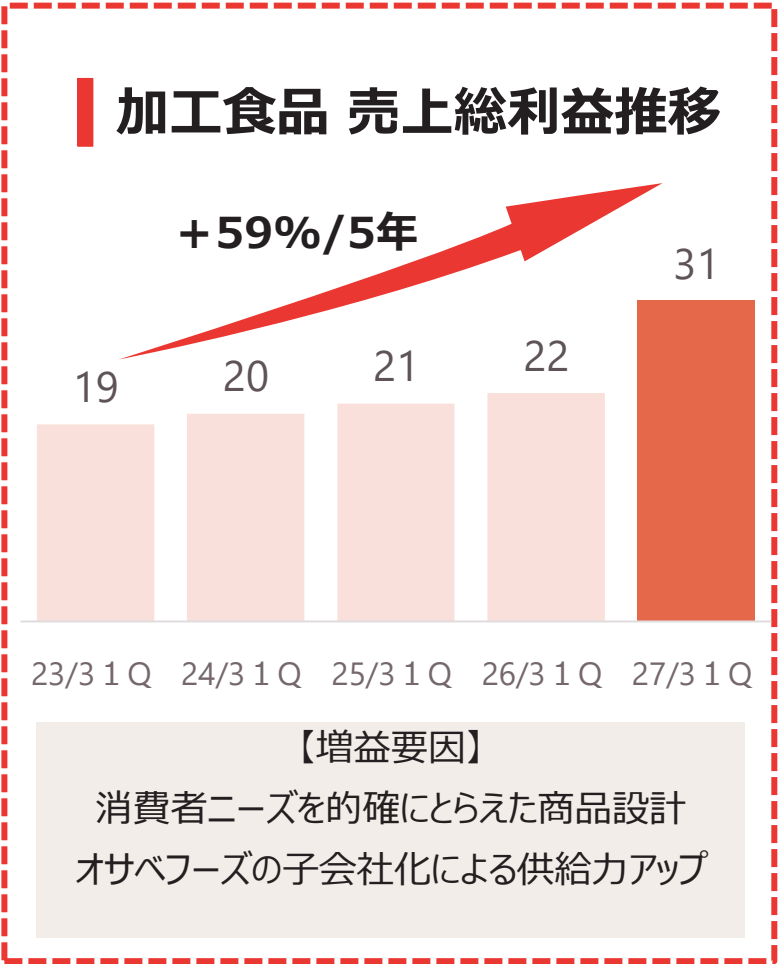
販管費増（人件費・物流費等）を上回る売上総利益を計上

4. 品目別業績（売上高・売上総利益）

（単位：億円）

		前期 (26/3 1Q)	当期 (27/3 1Q)	増減額	前年同期比
食肉	売上高	867	903	+36	104.2%
	売上総利益 ^{※2}	75	81	+5	107.8%
加工食品 ^{※1}	売上高	205	274	+69	133.6%
	売上総利益 ^{※2}	22	31	+9	140.8%
その他	売上高	12	12	+0	101.0%
	売上総利益 ^{※2}	4	5	+0	110.0%
合計	売上高	1,085	1,191	+105	109.7%
	売上総利益 ^{※2}	103	118	+15	115.0%

※1 加工食品は決算短信上の「加工食品」と「ハム・ソーセージ」の合算です。
※2 上記、品目別の売上総利益は社内管理上の算定値です。



商品力・提案力の向上により 加工食品の売上総利益が大幅に拡大

5. 財務状況

連結貸借対照表

※26年3月期 期末との増減比較

(単位：億円)

27年3月期 1Q

総資産

2,135 (+113)

流動資産

+52

主な内訳

- ・受取手形および売掛金 ▲37
- ・棚卸資産および前渡金 +88

固定資産

+61

主な内訳

- ・有形固定資産 +44
 - ・無形固定資産 +25
 - ・投資その他の資産 ▲8
- (政策保有株式 5 銘柄を売却)

流動資産
1,306

負債
1,178

固定資産
827

純資産
956

自己資本比率

44.8%

D/Eレシオ

0.70倍

負債

+114

主な内訳

- ・買掛金 +26
- ・短期借入金 ▲47
- ・長期借入金 +74
- ・社債 +50

純資産

±0

主な内訳

- ・当期純利益 +26
- ・支払配当金 ▲24

財務規律を維持しつつ、積極的に成長投資を実施

6. 資本政策

① 配当予想の上方修正（増配）

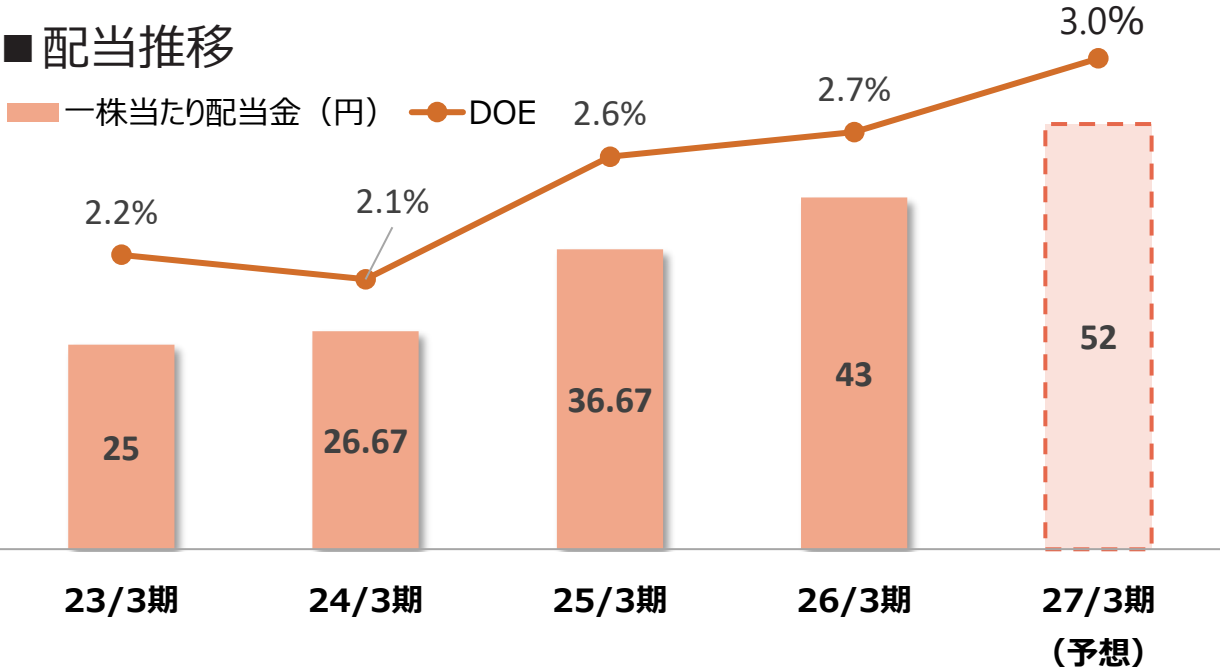
- 昨年度実績の43円から52円（予想）に9円増配
⇒DOE目標3.0%を達成見込み
- 中間配当制度を導入

② 自己株式の取得

- 取得上限株式数150万株
- 取得上限金額15億円
- 取得期間：2026年7月1日～12月31日

③ 記念株主優待実施（マクドナルド取引55周年）

- 1971年日本第1号店出店からの取引継続を記念
- 2026年9月末時点の100株以上保有の株主さまに
マックカード1,000円分贈呈



	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期	27/3期 (予想)
一株あたり配当金 (円) ※	25.00	26.67	36.67	43.00	52.00
連結純資産 (億円)	701	780	887	957	988
DOE	2.2%	2.1%	2.6%	2.7%	3.0%

※2025年4月1日付で1株につき3株の割合で株式分割を実施しており、比較のため遡及修正を行った場合の値を記載しています。

成長投資とのバランスを取りつつ、株主還元を積極的に拡充

7. トピックス

② 加工食品群の品ぞろえと生産能力増強

■ (株)オサベフーズの子会社化（4月）

【ハンバーグ商品等のラインナップ拡充】

- ・ 宮城県気仙沼の冷凍食品製造販売会社を**子会社化**
- ・ 同社の**高い技術力・生産性**と

当社の**強固な販売力**を融合



② グループ内物流の骨太な改革

■ 東扇島センター稼働開始（8月）



スターゼン東扇島センター（川崎市）

【当社物流ネットワークの中核拠点】

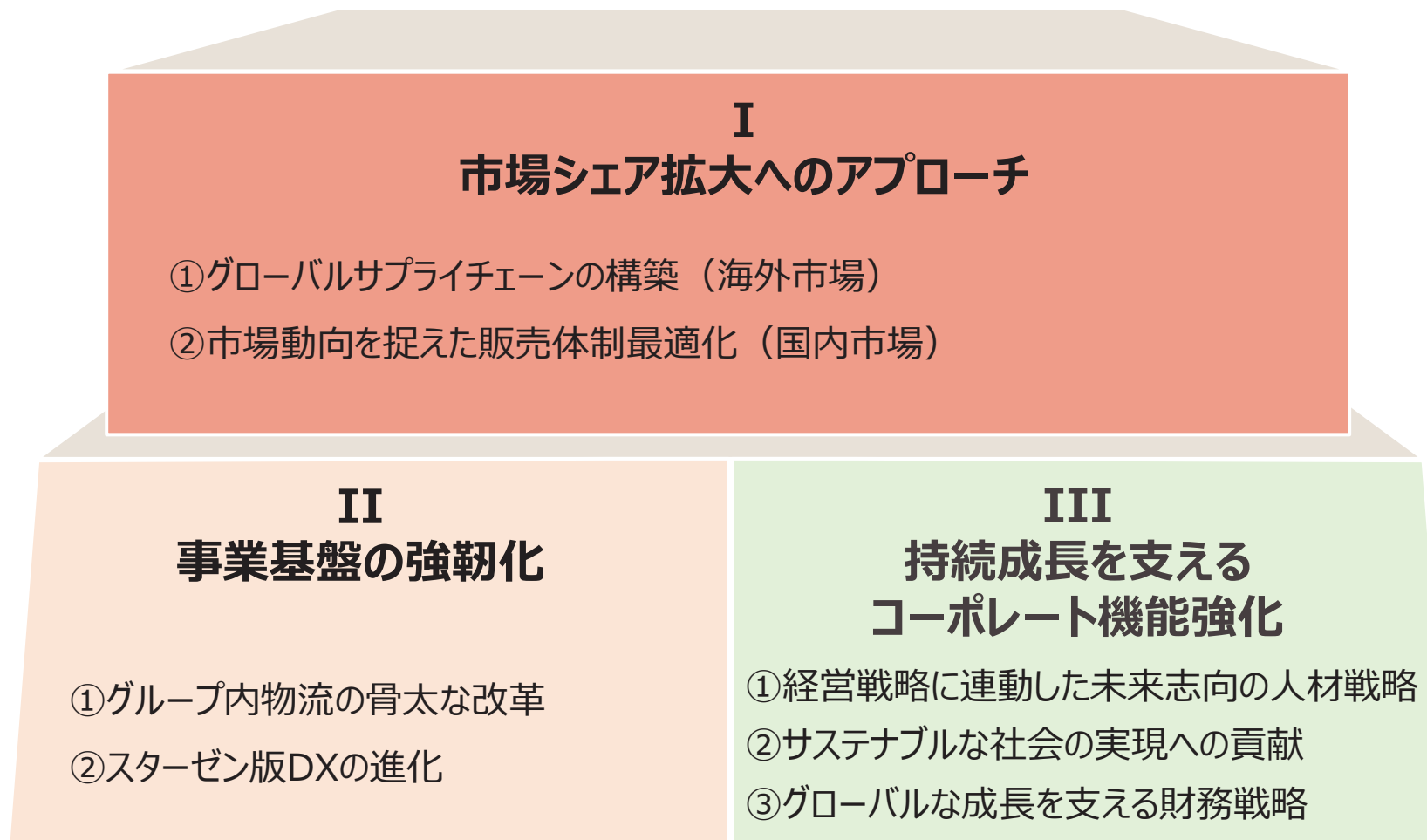
- ・ 保管能力は従来拠点の**2.5倍**（約27千公称トン）
- ・ **配送効率の改善**による輸送負荷の低減と品質向上
- ・ **食品の流通加工機能の併設**による効率化

参考資料

中期経営計画2030 – 概要 –

中期経営計画2030のテーマ

「強みのさらなる進化とグローバル市場への挑戦」



中期経営計画2030 – 財務目標 –

中期経営計画2030のテーマ

「強みのさらなる進化とグローバル市場への挑戦」

KPI	中計2022 (23/3期)	中計2025 (26/3期) ①	新中計2030 (31/3期) ②	増減 (②－①)
売上高	4,251億円	4,482億円	5,500億円	+1,017億円
経常利益	102億円	110億円 (5%)	160億円 (15%)	+50億円 (+10%)
EBITDA	110億円	130億円	210億円	+80億円
ROIC	6.4%	5.7%	6.0%以上	+0.3%以上
ROE	11.1%	9.0%	10.0%以上	+1.0%以上

投資計画：総計700億円

投資内訳

国内市場

240億円

- 生産農場との連携強化
- 市場動向に合わせた販売体制・拠点整備
- 加工食品の生産体制増強

海外市場

260億円

- 和牛輸出認定工場整備
- 海外食肉生産・加工機能整備
- 海外販売体制の増強

DX・業務効率化

60億円

- 物流機の拡充
- システム刷新と業務プロセス改革

維持・更新投資

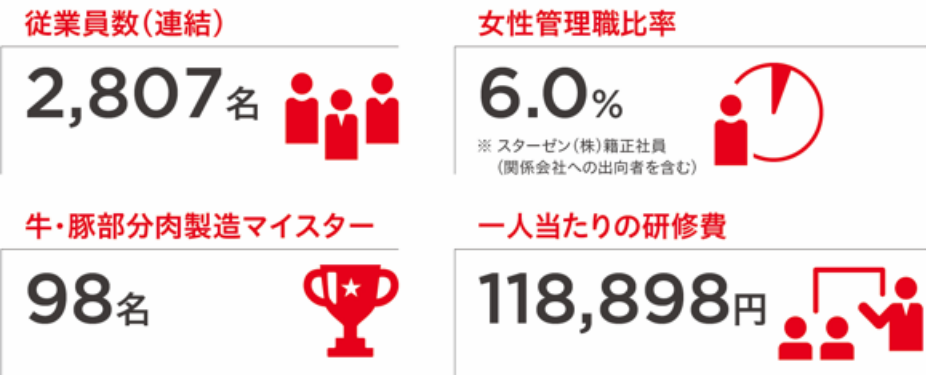
140億円

- 工場、営業拠点等の設備更新等

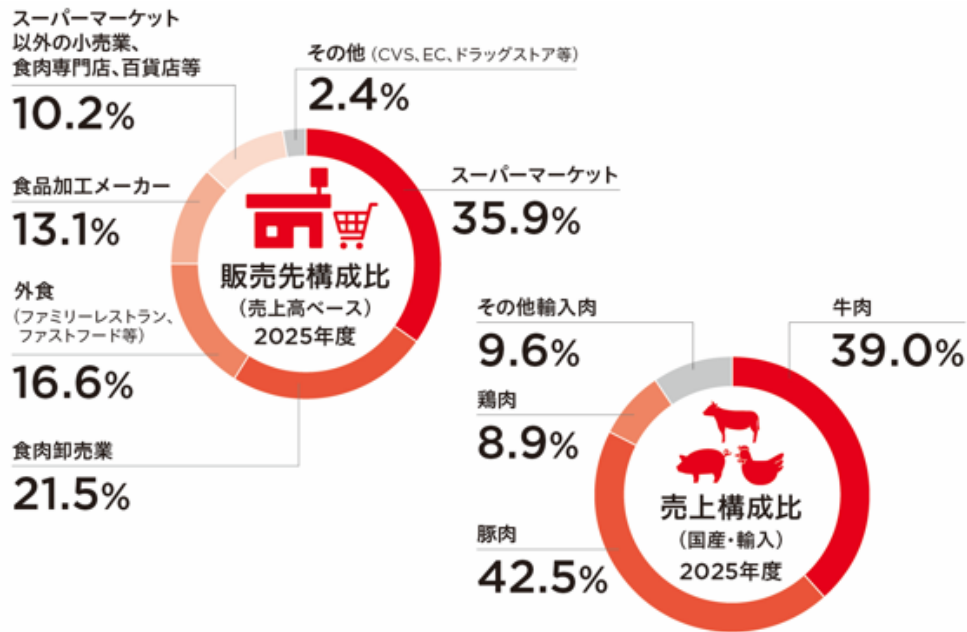
ROIC6.0%以上を目安とし、
資本効率を意識した投資を推進

会社概要①

■人材・技術（2026年3月末現在）



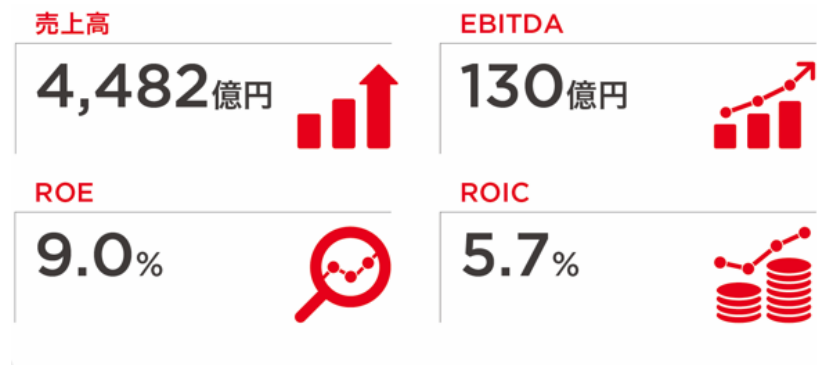
■事業活動



■事業基盤（2026年6月末現在）



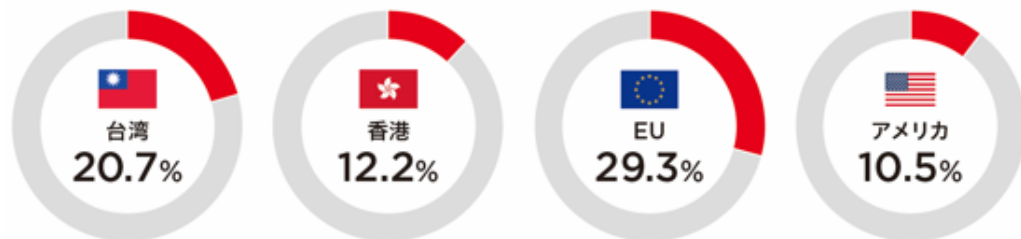
■財務成果（2026年3月期）



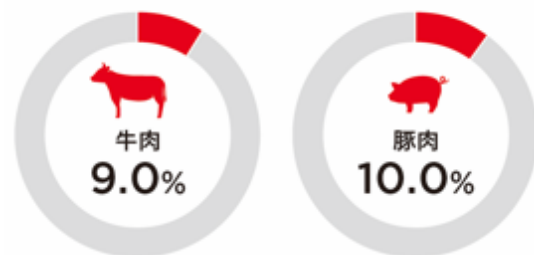
会社概要②

■ 国内外市場における当社のポジション

牛肉の輸出国・地域別マーケットシェア(数量ベース)(2025年度)

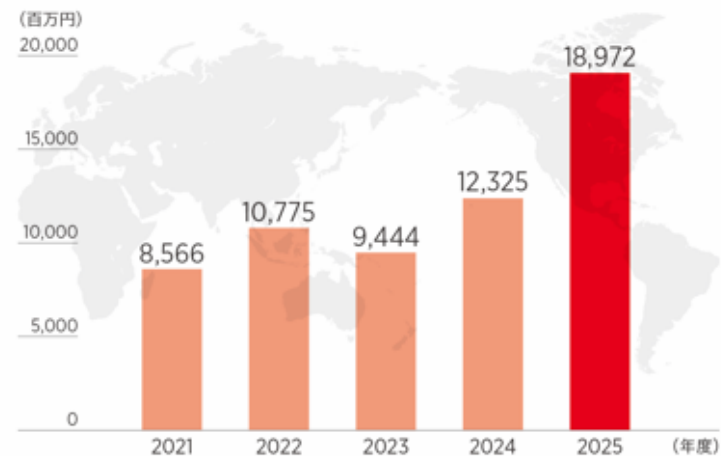


国内における販売シェア(2025年度)



■ グローバルネットワークを活かした海外事業の成長

海外事業売上高推移



■ 高い衛生基準と高度な食肉加工技術

国内における輸出認定工場など(2026年6月末現在)

- 食肉処理・加工工場

7カ所

- 加工食品製造工場

12カ所

- 消費地型
プロセスセンター

5カ所



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の作成時点において当社が入手可能な情報および合理的と判断した一定の前提に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があり、当社は本資料の内容を更新・修正する義務を負うものではありません。

【本資料に関するお問い合わせ先】

〒108-0075

東京都港区港南2-4-13 スターゼン品川ビル

スターゼン株式会社 広報・IR部

E-mail : kouhou.ir@starzen-group.com

IR情報サイト: <https://www.starzen.co.jp/ir/>